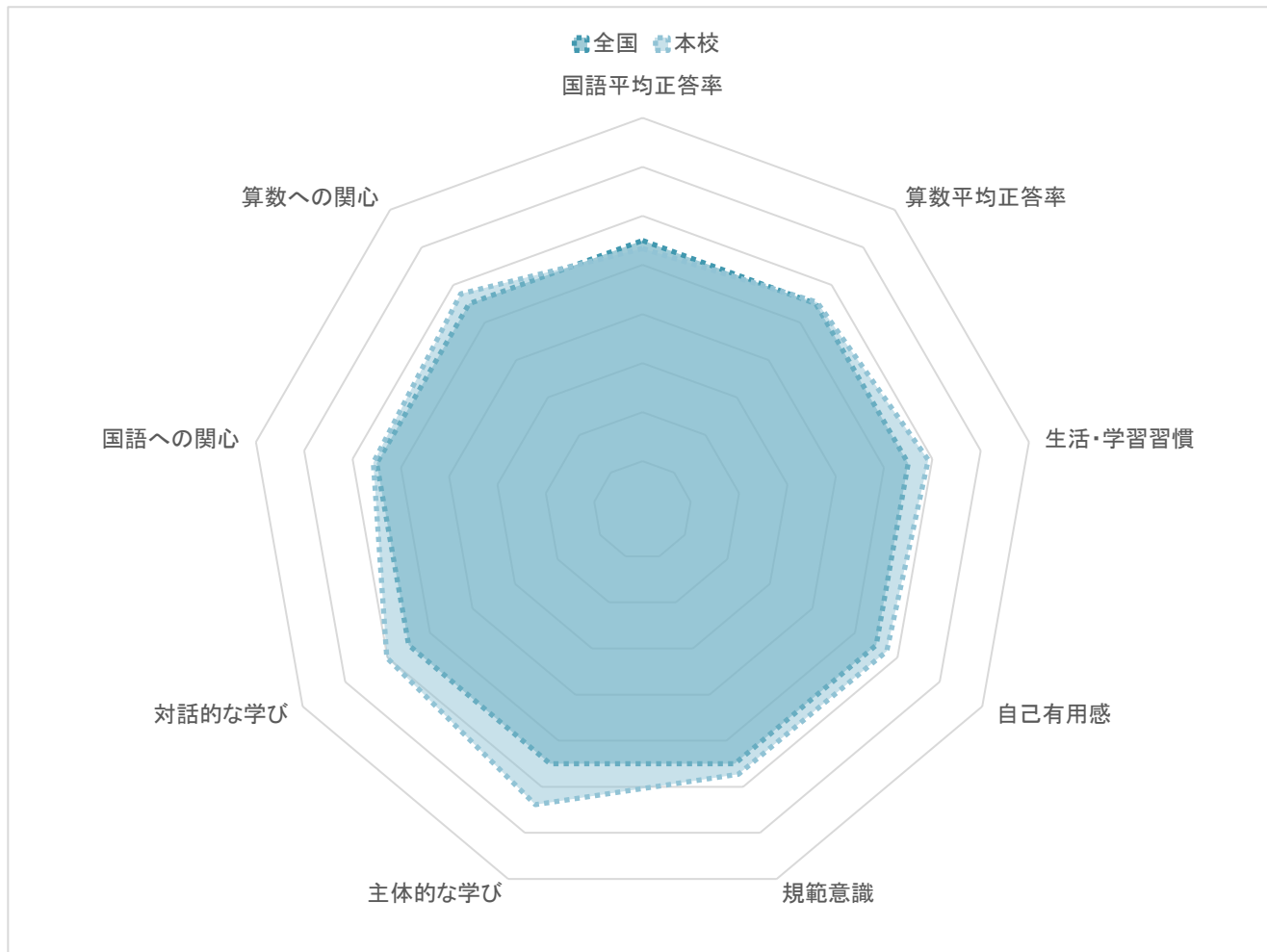


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

《国語》全国平均と比較すると、ほぼ同じだが、東京都の平均より2%下回る結果となった。  
 ・言語の特徴や使い方に関する問題や、話すこと・聞くことの問題において、特に平均を下回る結果となっている。  
 《算数》全国平均とほぼ同じ、都平均では4%下回る。  
 ・領域別に見ると、資質・能力において、「知識・技能」よりも「思考・判断・表現」の定着に課題が見られる。

《授業改善のポイント》

- ・その時間の学習のめあてを児童に示し、めあてにそった学習の振り返りを文章で書いたり、なぜそう考えたのか理由を付けて説明したりする活動を行う。
- ・習熟度が低い児童に対しては、スモールステップの学習や、学習に対する意欲が高まる工夫を取り入れ、主体的な学習を促す。
- ・自分の考えを表現する経験を継続的に行い、書く習慣を身に付ける。
- ・話し合い活動などを意識的に関連付けることで、自分の考えをまとめたり、整理したりする力を身に付ける。
- ・最後まで丁寧に問題に取り組み、目標を達成できたことを認め励ます指導を行う。

《チャートの特徴》

自己有用感が高く、特に「主体的な学び」「対話的な学び」の高さが結びついていると思われ、全国平均と比べても高い。主体的・対話的に学んでいる中で、自分の考えが大切にされ、習熟して身に付けた学習事項が活かされていることを実感しているのだと考えられる。目標に向かって努力している姿を、担任や教職員に褒められ認められていることを数多く体験し、そのことが、さらに学習に主体的に向かわせる一つと考える。疑問や課題などを「自分の力で解決したい」「分かるようになりたい」「できるようになりたい」という気持ちの高まりを生かし、学力向上に結び付けていきたい。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・早寝早起き、食事をきちんととるなど、児童が基本的な生活習慣を身に付け、学校で元気に過ごせるよう、学校から地域や家庭に積極的な情報発信、啓発を行っていく。
- ・保護者に家庭学習の意義を伝え、継続した取組を促す。